



◀6月23日、牧野医師が木山市長を表敬訪問

庄原赤十字病院の分娩取扱件数の実績

年度	分娩取扱件数
平成30年度	96人
令和元年度	126人
令和2年度	30人
4月	13人
5月	7人
6月	10人

庄原市の産科医療体制がさらに充実しました

令和2年4月、庄原赤十字病院の産婦人科に牧野康男医師が赴任し、常勤医師2人体制となりました。
 庄原赤十字病院は、常勤の産科医が不在となった平成17年4月以降、非常勤の医師による外来診療を行っていました。平成29年7月、赤木武文医師が常勤の産婦人科医として赴任し、平成30年4月、13年ぶりに、分娩が再開されることとなりました。
 今回、常勤医師が2人となり「庄原で安心して出産をしたい」という声に応える体制が、さらに充実しました。

庄原市の産科医療を取り巻く主な経過

平成17年4月	庄原赤十字病院が常勤医師の定年により産科を休止
平成20年4月	庄原赤十字病院の婦人科外来維持支援事業補助金開始
平成21年6月	「庄原市の地域医療を考える会」設立
平成25年9月	平成25年第1回広島県周産期医療協議会（備北圏域を第1優先とし、三次市と庄原市の両市における一体的な分娩体制を目指すことを確認）
平成28年度～	産科医療再開準備経費補助金を活用し、婦人科の常勤化に向けた医療機器を整備
平成29年7月	庄原赤十字病院婦人科の常勤医師確保（赤木医師の常勤により週5日の診療体制確保）
平成29年12月	広島県、三次市、庄原市、三次中央病院、庄原赤十字病院の調整により、平成30年4月から庄原赤十字病院の分娩取り扱いを再開することを確認
平成30年4月	庄原赤十字病院の産科再開（医師・助産師体制確保）
令和元年7月	庄原市こども未来広場（小児科診療所・病児病後児保育施設・子育て支援施設）整備完了。安心して産み育てることができる環境の充実へ向け連携
令和2年4月	庄原赤十字病院産婦人科の常勤医師1人増員（牧野医師の常勤により2人体制）

庄原赤十字病院に対する市の財政支援など

市は、これまで産科医療再開のため、医療機器の整備や、助産師の体制支援を行いました。また、小児科診療所、病児病後児保育施設、子育て支援施設からなる「庄原市こども未来広場」を整備し、庄原赤十字病院での出産医療と併せて「子どもを産み、育てる環境」を整えるために取り組んできました。



▲庄原赤十字病院 産婦人科の病室

診療体制

■外来診療体制

	月	火	水	木	金
午前 (8:00～11:00)	常勤医師	広大医師 (月2日) 常勤医師 (月3日)	常勤医師	非常勤医師	常勤医師
午後 (13:00～13:30)	-	-	-	常勤医師 (予約のみ)	-

■助産師の体制

①病棟・9人（岡山赤十字病院からの派遣1人、三次中央病院・松江赤十字病院との人事交流各1人を含む）
 ②外来・1人

■分娩体制

分娩は赤木医師と牧野医師の2人体制で365日24時間体制
 ・分娩台…2台
 ・入院ベッド数…4床

●牧野康男医師から一言



福岡大学、東京女子医大、沖縄県立北部病院を経て赴任してまいりました。日本産婦人科学会の産科ガイドライン作成委員を兼務してまいりました。で、胎児の超音波診断や最新の産科医療以外にも、更年期医療を含めた女性医学を実践し、庄原市民の皆さんに貢献できるように頑張ります。
 産科医が不足する今、いったんなくなった産科を再開するには膨大なエネルギーが必要で、再開したことは奇跡に近いと思います。今後は当地に産婦人科医を招聘する目的で医学部生の産婦人科研修の実践も行う予定ですが、庄原市や市民の皆さんのご支援をよろしく願います。

●庄原赤十字病院 中島浩一郎院長から一言



このたび、公益財団法人広島県地域医療支援センターの紹介で、当院2人目の産婦人科常勤医師牧野康男医師に赴任していただきました。
 牧野医師は、全国的に産婦人科医師が不足している中、庄原市のように一人の常勤産婦人科医師（赤木医師）で頑張っている地域を応援し、継続して分娩が行えるよう力になりたいという強い思いと、前赴任地の沖縄県から妻の実家がある広島県で働きたいという思いから、上記支援センターが運営する「ふるさとドクター ネット広島」のマッチングにより、当院の第二産婦人科部長として迎え入れることができました。
 牧野医師を迎えるに当たり、広島大学産婦人科医局、市立三次中央病院、庄原市など関係機関から、継続した支援をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。
 圏域の皆さんが安心して出産ができ、地域で子育てができるよう努力してまいるとともに、赤木第一産婦人科部長、牧野第二産婦人科部長という常勤医2人体制により、出産だけでなく婦人科疾患の診療にも力を注いでま

います。

●庄原赤十字病院で出産した方から一言



初めての妊娠、出産で分からないことや不安なこともありましたが、妊娠初期から赤木先生や助産師の皆さんに丁寧に対応してもらい、その不安も和らぎました。特に夜間、急に体調が悪くなったり、お腹の張りが強くなったりしたとき、電話での相談や診察してもらい、いつでも対応してもらえることが出産に対する安心感につながりました。市内に産科があることで通院距離の心配も減り、多くの人が私のように妊娠期間を安心して過ごし、出産に臨めるのではないかと思います。また、出産後も母乳外来・育児相談など、改めて近くに産科がある環境のありがたさを感じています。

常勤産科の先生が2人になり、さらに産科の体制が整ったことに感謝の気持ちでいっぱいです。今後生まれてくる子どものために、産科がいつまでもこの庄原市にあり続けることを願っています。

●今後の方向性

本年度、市は庄原市子育て世代包括支援センター（ほのぼのネット）を設置し、妊娠期から子育て期にわたって一人一人に寄り添った切れ目のない支援を行っています。今回の庄原赤十字病院の産科常勤医師の増員により、産科医療体制の充実が図られたことを追い風に、より一層安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを進めていきます。

